

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284122

研究課題名(和文) 戦時期朝鮮の政治・社会史に関する一次資料の基礎的研究

研究課題名(英文) Material Survey on Politics and Society of Korea, 1937-1945

研究代表者

水野 直樹 (Mizuno, Naoki)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：40181903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：日中戦争・アジア太平洋戦争期の植民地朝鮮の政治や社会・文化を理解するために必要な資料を国内外の図書館・文書館で調査・収集し、そのうち重要と認められる資料を選んでWEB上の資料集を作成した。これらのほとんどは、文書資料として残されているだけで、印刷されることがなかったため、一般市民のみならず研究者も閲覧・利用に不便をきたしていたものである。WEB上の資料集は、今後の歴史研究に利用でき、また広く歴史認識の共有にも役立つものとなっている。また植民地期とその直後に朝鮮に在住していた日本人の回想記・手記類についても、目次・著者略歴などのデータを整理してWEB上で提供することとした。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to survey and collect materials necessary for understanding the political, social and cultural conditions of colonial Korea during the period of the Sino-Japanese and Asia-Pacific Wars (1937-1945) at libraries and archives in Japan and overseas. We selected those materials recognized as valuable, and compiled them into an online collection. Because most of these materials only remained as documents, which had never been printed out or published, members of the general public as well as researchers were unable to easily access or use them. The online collection can be utilized for historical research in the future, thus contributing to the development of a broadly shared historical consciousness. Furthermore, data related to the memoirs and reports of Japanese people who lived in Korea during or immediately after the colonial period has been catalogued in the table of contents and will be made available on the web.

研究分野：朝鮮近代史

キーワード：朝鮮 植民地 戦時期 資料

### 1. 研究開始当初の背景

日中戦争・アジア太平洋戦争期の植民地朝鮮に関しては、「従軍慰安婦」問題をはじめ様々な議論がなされているが、歴史資料にもとづく正確な知識が必ずしも共有されているとはいえない。戦時期であったため公表されなかった情報も多く、刊行物も限られていたため、歴史研究に利用できる資料に限界があるのもひとつの理由である。歴史資料の共有を図ることが必要と考えたことが研究の背景である。

### 2. 研究の目的

戦時期の朝鮮の政治・社会・文化などの実相を把握する上で必要な資料を調査・収集し、広く歴史資料として共有すべきものを選んで資料集を編集することを目的とする。また、戦時期朝鮮の状況を記録した資料として、朝鮮在住日本人(朝鮮からの引揚者を含む)の回想記・手記類を調査し、目次などのデータを整理することを副次的な目的とする。

### 3. 研究の方法

上記の資料を研究分担者がそれぞれ日本・韓国などの図書館・文書館において調査・収集したうえ、資料的意義や重要性に関しては研究会などで検討し、重要と認められる資料を編集し、WEB上の資料集を作成する。これらの多くは活字化されていない文書資料であるので、それらは翻刻(文字起こし)したほか、印刷された資料のうち著作権問題が発生しないものについてはPDFファイルで収録する。朝鮮在住日本人の回想記・手記類については、その実物を確認しながら目次や著者・筆者の略歴をデータ入力する。

### 4. 研究成果

国内外の図書館・文書館での資料調査によって、これまでの研究では利用されてこなかった多くの資料を収集した。あるいは知られている資料であっても、その意義が認められていなかったものも多い。とりわけ韓国の文書館に保存されている文書資料は、日本語で書かれているため韓国の研究者には利用しづらいため、あまり注目されてこなかったが、戦時期朝鮮の実像を明らかにするために重要な資料となるものである。調査の結果、それらの資料を掘り起こし、資料集に収録し得たことは大きな成果である。一部の例をあげると、次のような文書を新たに発掘した。

・拓務省管理局『台湾及樺太ニ於ケル朝鮮人』(1937年)

・朝鮮総督府「徴兵制度実施二件フ輿論指導方針ノ件」(1942年5月13日)

・京畿道警察部長「緊迫セル時局下ニ於ケル民心ノ動向査察ニ関スル件」(1941年10月2日)

・高等法院検事長「戦時緊急治安維持対策ニ関スル件」(1941年12月19日)

・長野朗「朝鮮視察概況」(1942年)

・咸興地方法院検事局(?)「食糧逼迫二件フ特殊事情」(1942年)

・朝鮮奨学会「在内地朝鮮学生戦時非常措置指導対策」(1943年10月19日)

・「第26回中樞院会議における総督・警務局長訓示」(1945年7月30日)

・大邱覆審法院検事局「昭和十六ノ二十年予防拘禁執行原簿」

これらのほか、韓国の国家記録院に保管されている刑事事件判決文から戦時期の流言飛語事件の判決文19件を選び出して翻刻した。流言飛語事件判決文からは、戦時期の食糧供出、労務動員、志願兵・徴兵、さらには「慰安婦」に関わる朝鮮民衆の認識と対応を読み取ることができ、言論が統制されていた戦時期の実情を把握・理解する上で重要な資料である。

さらに、当時刊行された雑誌や新聞からも関係記事を拾い、著作権問題を生じない範囲でPDF化して、WEB上の資料集「戦時期朝鮮関係資料」に収録した。

また、朝鮮在住日本人が戦後に書いた回想記・手記類(そのうち相当数は私家版での出版)を収集し、入手できないものは国立国会図書館や奈良県立図書情報館(戦争体験文庫)などで閲覧して、目次や著者・筆者の略歴をデータ入力した。これらの回想記・手記類は、戦時期の朝鮮社会のありようを反映しており、補助的な資料として利用できるものであるが、これまでではどのような回想記・手記類が存在するのか、その内容はどのようなものであるのかを知るすべがなかった。その点でこれらをデータ化したことは、本研究のひとつの成果である。データ入力したExcelファイルは、WEB上で閲覧できるようにした。

総じて本研究は、戦時期朝鮮の政治・社会・文化などの研究を進めるための基盤を構築したものであり、その成果は今後、研究者や市民に広く活用されるものとなった。

なお、本研究に関連して、日韓歴史研究者ワークショップ「流言飛語」の時代—戦時期朝鮮社会の実像を探る—(2015年2月7日、京都大学人文科学研究所)公開セミナー「映

画「授業料」と戦時期朝鮮の教育状況」(2015年6月13日、京都大学人文科学研究所)を開催し、多数の参加者を得た。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 26 件)

Naoki Mizuno, A Propaganda Film Subverting Ethnic Hierarchy?: "Suicide Squad at the Watchtower" and Colonial Korea. *Cross-Currents* Vol.2 No. 1, 2013.

水野直樹「皇民化政策」の本質を考える—「皇国臣民の誓詞」をめぐる—(笹川紀勝監修『国際共同研究 韓国強制併合—100年歴史と課題』明石書店、2013年)

水野直樹「朴錫胤—植民地期最高の朝鮮人エリート—」(『講座 東アジアの知識人』第四巻、有志舎、2014年)

松田利彦「帝国日本の政策連鎖—内務官僚の植民地への移入と「地方改良運動」」(黄自進主編『東亜世界中的の日本と台湾』中央研究院人文社会科学研究中心亞太区域專題中心、2013年)

松田利彦「東亜聯盟運動に参加した朝鮮人—曹寧柱と姜永錫」(『東アジアの知識人』第4巻、有志舎、2014年)

洪宗郁「白南雲—普遍としての民族=主体—」(『東アジアの知識人』第4巻、有志舎、2014年)

藤永壯「

」(『  
』、2013年)

河かおる「滋賀県における朝鮮人強制動員の記録(2)韓国における生存者の聞き

取り調査より」(『人間文化』34号、2013年)

水野直樹「治安維持法による死刑判決—朝鮮における弾圧の実態」『治安維持法と現代』28号、2014年)

水野直樹「

」(『  
』、2014年)

洪宗郁「」(『  
』93号、2014年)

河かおる「滋賀県における朝鮮人強制動員の記録(3)—韓国における生存者の聞き取り調査より」(『人間文化』37号、2014年)

松田利彦「志賀潔と植民地朝鮮」(『翰林日本

学』第25号、2014年)

松田利彦「朝鮮総督府初期の日本人官吏—形成過程・構造・心性」(『東洋文化研究(学院大学東洋文化研究所)』17号、2015年)

河かおる「滋賀県における朝鮮人強制動員の記録(4)—韓国における生存者の

聞き取り調査より」(『人間文化』38号、2015年)

宮本正明「第13代沈壽官と植民地朝鮮」(『薩摩・朝鮮陶工村の400年』岩波書店、2014年)

宮本正明「日本敗戦直後における朝鮮奨学会の改編と活動—1945~50年の時期を中心に—」(『立教学院史研究』12号、2015年)

庵途由香「朝鮮に常設された第十九師団と第二〇師団」(『地域のなかの軍隊 7巻 植民地編 植民地と軍隊』吉川弘文館、2015年)

藤永壯「済州島民の渡日・在日経験と血縁・地縁ネットワーク—東回泉マウルの事例から—」(『在日コリアンの生活文化と変容』韓国語、ソニン、2014年)

藤永壯「「失われた二〇年」の「慰安婦」論争—終わらない植民地主義」(『慰安婦』問題を / から考える—軍事性暴力と日常世界—』岩波書店、2014年)

李昇燁「

が

」『藏書閣』31号、2014年)

水野直樹「在間島日本領事館と朝鮮総督府—「間島共産党事件」をめぐる協力と対立—」(『人文学報』106号、2015年)

松田利彦「1910年代における朝鮮総督府の国境警備政策」(『人文学報』106号、2015年)

松田利彦 "Les KEMPEITAI et l'expansion du Japon imperial a Taiwan, en

Core'e et en Chine au de'but du XXe sie'cle", Arnaud Houte et Jean-Noe'l

Luc eds., /Les Gendarmeries dans le monde, de la Re'volution franc,aise

a` nos jours/, (Paris:Presses universitaires Paris Sorbonne, 2016)

李昇燁「植民地・勢力圏における「帝国臣民」の在留禁止処分」(『人文学報』106号、2015年)

洪宗郁「

—」(『  
』20号、

2016年)

宮本正明「戦前期における立教大学の朝鮮人留学生」(『立教』234号、2015年)

〔学会発表〕(計 15 件)

水野直樹「植民地朝鮮における治安維持法」(東京大学コリア・コロキウム、2015年10月29日、東京大学)

宮本正明「在日朝鮮人の『戦時』と『戦後』—戦争協力団体との関係を中心に」(政治経済学・経済史学会秋季学術大会・パネルディスカッションH「日本帝国解体過程における東アジア民衆の経験—戦時・戦後経験の意味するもの」、2015年10月16日、福島大学)など

〔図書〕(計 5 件)

松田利彦・酒井哲哉共編著『帝国日本と植民地大学』(ゆまに書房、2014年)

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人 歴史と現在』(岩波書店、2014年)

松田利彦・岡崎まゆみ共編著『植民地裁判資料の活用 韓国法院記録保存所所蔵・日本統治期朝鮮の民事判決文資料を用いて』(国際日本文化研究センター、2015年)

松田利彦『東亜聯盟運動と朝鮮・朝鮮人』(有志舎、2015年)

水野直樹・金仲燮監修『朝鮮衡平運動史料集』(解放出版社、2016年)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「戦時期朝鮮関係資料」

[http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~mizna/se  
njiki/](http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~mizna/se<br/>njiki/)

6. 研究組織

(1)研究代表者

水野直樹(MIZUNO Naoki)(京都大学・人文科学研究所・教授) 研究者番号:40181903

(2)研究分担者

藤永壮(FUJINAGA Takeshi)(大阪産業大学・人間環境学部・教授) 研究者番号:00247876

宮本正明(MIYAMOTO Masaaki)(立教大学・立教学院史資料センター・学術調査員) 研究者番号:20370207

河かおる(KAWA Kaoru)(滋賀県立大学・人間文化学部・講師) 研究者番号:30316939

松田利彦(MATSUDA Toshihiko)(国際日本文化研究センター・研究部・教授)

研究者番号:50252408

LEE Sung Yup(佛敎大学・歴史学部・准教授)

研究者番号:50378882

(3)連携研究者

( )

研究者番号: